

# ATHENA LIBRARY OF ENGLISH STUDIES

## Part 11, Vols 42–46: Cultural History, 3rd Series

全5巻セット (定価 本体89,000円+税) • ISBN 978-4-86340-162-4 • 菊判/A4判

### イギリスサッカーの発展

現在、その競技人口が2億5千万人ともいわれ、国際連合加盟国を上回る国と地域で行われている、世界でもっともポピュラーなスポーツ、サッカー。その母国を任じるイギリス・イングランドにおいてこの競技がいかにしてスポーツとして確立し広まっていったのか、歴史的な発展状況を詳述する名著2点を復刻します!

「フットボール」、「サッカー」、「ラグビー」の語源的背景も、イギリス国内の階級や地域の対立といった社会的問題も浮かび上がってくる、イギリス研究の重要な資料です。もちろん写真も満載、フットボール・マニア必携の内容を備えています。学生用の洋図書としても!



#### Contents

**Volumes 42–45:** Alfred Gibson and William Pickford, eds *Association Football and the Men Who Made It* (1905–6\*)

定価 本体 60,000+税 • ISBN 978-4-86340-163-1 • 4 vols • 888 pp., 96 pl., ill. • 菊判

- (1) History of the Game • How to Keep Goal • The Forward Game • Giants of the Game • Phases of Football
- (2) The Origin and Future of the Football League • Impressions of Wing Play • The Duties of a Full Back • Half-Back Play • Football Journals • Giants of the Game • A History of Midland Football • Football in Sheffield • Football in Lancashire • Phases of Football
- (3) The Referee: Past, Present, and Future • London Football • The Art of Goalkeeping • North-Country Clubs • Football in Manchester • Football in Bury • Football Association Council
- (4) The Game in Scotland • Queen's Park • Duties of a Centre Forward • England v. Scotland: Some Famous Games • Giants of the Game • The Association Cup: A Record of the Great Classic Contest • South of England Clubs • Football in Ireland • International Football • Famous Forward Lines • Defence in Football • The Game in Wales • How to Run a Football Team • The Laws of the Game • Index

\* Date according library catalogues



**Volume 46:** *The Book of Football: A Complete History and Record of the Association and Rugby Games* (1906)

定価 本体 29,000+税 • ISBN 978-4-86340-164-8 • 304 pp., ill. • A4判

In addition to chapters on the histories of about fifty famous clubs, of the games in England, Scotland, Ireland and Wales, and of the various soccer and rugby organizations, the work also comprises chapters on: – The Antiquities of Football • The Growth of Modern Football • The Making of a Player • Football Fiascos • The £ s. d. of Football • The Ball and the Boot – How They Are Made: Some Interesting Facts about a Great Industry • The Evolution of the Playing Pitch • Football in the Army • The Day's Work: How the Professional Player Is Trained • Public School Football • Schoolboy Football • Big Transfers and the Transfer System • The League and the League System • University Football: Association; Rugby • England's International Teams, and How They Are Selected • Football in America • The Art of Captaincy • The Principal Amateur Clubs of the Past • The Much-Abused Referee



# サッカーなしでは始まらない —イングランドと近代サッカーの誕生

田中 孝信 ● 大阪市立大学教授

世界中で愛されているアソシエーション・フットボール、私たち日本人には association の口語的短縮形であるサッカー (soccer) の名で知られるスポーツに対するイングランド人の思いは熱い。「労働者階級のスポーツ」と陰口を叩かれながらも、各地のクラブでは多くの大人や少年たちがプレーし、シーズン中は競技場で老若男女が晶屑のチームのグッズを身につけてガラガラを鳴らしながら靡し立て、フーリガンと化して暴れ回りさえする。賭博に国民こぞって合法的に興じ、国庫は潤う。サッカーは彼らの血であり肉であり、それなしにはパブでの酒も始まらない。

なぜこうした状況が生じたのだろうか。これは一考に値する疑問であり、スポーツとしてのサッカーそのものの魅力もさることながら、その歴史を紐解く必要が出てくる。そこから分かってくるのは、サッカーに対する情熱はずっと昔から民衆の間に根づいていたということだ。ただ単にフットボールと呼ばれていた頃、人々は町や村の端から端までを競技場にして、草や豚の膀胱に空気を入れて膨らませたボールをゴールに入れるという以外にほとんど何のルールもない状態で、足はもちろん手も使ってプレーしていたのだ。はては骨折者続出で、死者まで出る始末。特に四旬節の禁欲生活直前の告解火曜日のどんちゃん騒ぎは、暴動にまで発展する。当局は治安維持のために何度も禁止令を出す、それも功を奏さない。

これが現在のサッカーとラグビーの起源であるが、19 世紀半ばには、それまで各地でんでパラバラな形態やルールで行われていたものに、パブリック・スクールが中心になって統一と規則化を図ろうとする動きが見られるようになる。その象徴的な出来事が 1863 年のイングランドにおけるサッカー協会 (The Football Association) の創設である。これを機にフットボールは娯楽からスポーツへと新たなスタートを切ることになる。もちろん最初は参加数も少なく、南部の、それも上・中流階級のクラブであった。したがって、Tom Brown's School Days (1857) に見られる「筋肉的キリスト教」のような考え方が色濃く反映されていた。その影響は帝国主義のもと、愛国精神やリスペクタビリティとなって、後のプロ選手にも求められることになる。ルールもそう簡単に統一できるわけではなく、ラグビー派は FA を去る。サッカー派に純化された FA は、1871 年に FA カップを開催したのだが、当初は北部のクラブはロンドンまでの遠征費用が賄えず、出場を断念せざるを得ないこともしばしばだった。し

かし、土曜の午後が休日になるにつれて産業労働者の中で余暇の利用としてのサッカー熱が高まり、1883 年を境に、北部の労働者クラブが南部のエリート・クラブを打ち負かす逆転現象が起こるようになり、サッカーの大衆化が定着する。1874 年には初めて入場料が取られるようになり、そのために一層高度な技術が要求されるようになると、プロ選手が登場する。1885 年に FA はプロ選手を認め、その結果アマとプロの決裂を回避することができ、1882 年に国内でのルールの統一が実現したことと相俟って、サッカーが世界的に広がる礎が築かれたのである。それは、1904 年に国際サッカー連盟 (FIFA) が設立され、1930 年には第 1 回のワールド・カップ (W 杯) が開催されたことから明らかである。1888 年には北部と中部のクラブが中心となって、財政面で援助するためにサッカー・リーグ (The Football League) が形成される。リーグ戦形式の大会を催すことで、対戦相手の実力が拮抗し、より一層の観客を動員することができるようになったのである。ここに近代サッカーがイングランドにおいて誕生したのだ。

今回復刻される 2 種類の書物は、まさにこのサッカー草創期の動きを詳細に追った名著である。4 巻からなる *Association Football and the Men Who Made It* (1905-6) は、この種の書物の中では最も有名なものであり、歴史と発展、ルールと戦術、有名な選手やクラブ、さらには重要な経営者など多岐にわたるテーマを扱っている。そして、*The Book of Football* (1906) は、増加しつつあった通勤サラリーマンを対象とした大判 2 段組みで、興味深い写真をふんだんに用いたものである。特にクラブの歴史に強みがあり、また、イングランドのみならず、スコットランド、ウェールズ、アイルランドにおけるサッカーとラグビーの歴史も扱っている。執筆陣には、FA 初代事務局長 Charles Alcock やサッカー・リーグの創設者 William McGregor など、近代スポーツとしての発展・組織化に貢献した錚々たるメンバーが名を連ねている。

今年はイングランドに FA が創設されて 150 年の記念すべき年であり、サッカー・リーグが設立されてからも 125 年の年にあたる。1966 年の W 杯以来優勝から遠ざかっている FA は、サッカーの母国の名にかけても、中部のバートン・アポン・トrent にトレーニング施設「セント・ジョージズ・パーク」を昨年 10 月に完成させた。ようやく復権への一歩を踏み出したばかりだが、これほどの熱の入れ様の背後に、私たちは 1 世紀半にわたって育まれてきたサッカーとイングランド人の社会的・文化的な生活との強い絆を窺い知ることができるのである。19 世紀後半から 20 世紀初頭のサッカーを多面的に扱った今回の復刻版は、原点に私たちが立ち帰らせ、その時代における階級間や北と南・ロンドンと地方といった地域間の対立と妥協をスポーツの観点から浮き彫りにしてくれるのみならず、イングランド人の国民性の根幹を理解する重要な手がかりを与えてくれるのである。

【発行】

Athena Press

株式会社 アティナー・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】